

朝里地名考 (一)

「アサリ」はアイヌ語で

「空に広く開けた土地」の意味である。

(その一)

小樽朝里まちづくりの会

朝里遺産部会 末永 通

「あさり＝朝里」の地名の成り立ちについては多くの先達の研究があった。当初の理解の為にアイヌ語地名の定番、山田秀三氏の「北海道の地名」より引用する。

1 西蝦夷日誌には「アサラ。本名アツウシナイのよし。今訛てアサリと云り。名義、楡皮多き沢の義」、「モアサラ。訛てマサラといふ」と書いた。atushina(アツウシナイ)から「おひよう楡・群生する・沢」、文から見ると、part sar「おひよう楡(のある)・湿原」ぐらいに呼んだものか? モアサラは mo-asar 小さい朝里川らしい。それが枉里。

2 永田地名解には「イチャニ ichani(鮭の産卵場)。和人イチャリと訛るを常とす。因りて漁(いさり)の字

を充用せしを、漁の字はアサルの訓あるを以てアサリと呼び遂に朝里村と称す。アイヌ又一郎云、アツウシナイ(松浦氏の地名は実にこれなし。甚だしき虚言なりと)書いた。ただし、アイヌの話といっても、時代により違う事が多かった事も考えなければならぬ。

3 北海道駅名の起源は、古くは永田説を書いていたが、昭和25年版から「朝里駅。マサリ(浜ぞいの草原から出たものである」と書いた。マサル(masaru)は海岸の砂浜に続いている、はまなすなどのある草原であるが、あの辺の崖下の狭い浜には、あまり広い草原はなさそうである。枉里の名から考えられたものだっただろうか。どうも分からない地名。1によってアツニ(おひよう楡)とサル(草原)とを続けても何か変である。研究問題として残したい」

1 説のアツウシナイはアサリにある川のことを意味しており、アサリの説明ではない。

現在では楡の木は海岸部の「アカタモ」一本を除くと、ほとんど見られない。

2 説はイチャニ、和人が訛り「イチャリ」、これにさらに「イザリ」と訛り、和語の「漁り」にあて「漁るアサル」ついで「アサリ」につなげるという苦しい説明だ。



写真1 ジョン・バチェラー肖像写真 1928

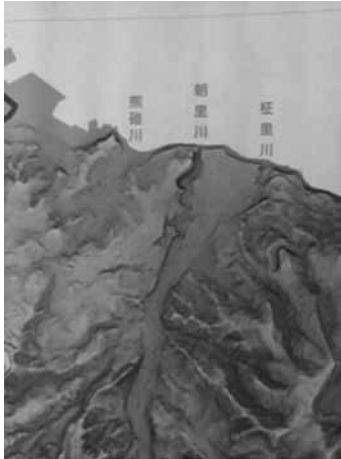


写真2 赤色等高図(国土地理院)アサリ部分が広く開けている



写真3 航空写真1968 朝里山の上
西は朝里川段上、東は石切山系に挟まれた扇状地、それが朝里

生活者のアイヌの説明ではない。この部分では知里氏の否定論(アイヌ語入門)がある。

3 説の「マサリ」の地名は、モアサリ (mo-asari) が語源であることは、熊碓川についての項で詳述した。三つの説はいずれも山田氏の言うように「アサリ」の説明にはなっていない。

山田秀三氏の「北海道の地名」の「主な引用文献について」(7~11頁)には、秦檜麻呂地名考、上原熊次郎地名考、蝦夷地名解、松浦武四郎資料、野作(えぞ)東部日記、永田地名解、道庁版旧二十万分図、北海道の駅名の起源、知

再版北海道蝦夷語地名解

里真志保博士の諸書、などが挙げられているが、ジョン・バチエラー(写真1)の名はない。山田修三氏はバチエラーの地名考は参照して見えないかに見える。ジョン・バチエラーの名を挙げることを避けたのか。永田地名解の再販巻頭言にその空気が窺える。

本書は明治二十四年三月本廳に於て出版せる前本廳屬永田方正著「北海道蝦夷語地名解」を再版に附し添ふるに英国人ジョン・バチエラー氏著英和辭書第五章第二節

アイヌ地名考の翻譯を以てせるものなり書中の解釋に就き間々異論を挿むもの無きにしも非ずと雖も今原本に據り一字を添削せずバチエラー氏の地名考中往々北海道以外の地名を交ふるも亦之を採録せり要は唯蝦夷語地名の解釋に資せんとするに在るのみ

明治四十一年三月

北海道廳

この項を書くにあたり、インターネットで覗くのではなく、北海道の地名の先駆者、永田方正の「永田地名解」を「日本の古本屋」で購入した。国書刊行会発行の昭和53年復刻三版が届いた。見ると、北海道蝦夷語地名解附・アイヌ地名考(ジョン バチエラー)永田方正著とあり、ジョン・バチエラーのアイヌ地名考が掲載されていた。永田地名解とバチエラー辞書は、それぞれ別個に出版されており、北海道廳の永田地名解復刻版に附書として発行されたのだ。

早速、アサリを参照してみた。朝里の地名は、斯くも古くから、示されていた。

アサリ Asari アサル イ (Asari-)

「開きたる場所」、即ち空に開くこと

アサリ Asari アサリ ベン Asari-ben

「開きたる河」
此の語の語源は サラ (sara) 即ち「開かれたること」

ア (a) は、受動的自働冠詞

(passive and intransitive prefix)

イ (i) は位置を示す助辭

アサラ (asara) の終りのア (a) はアイヌ語文典に從て省略せらる

(ジョン・バチエラー氏著、アイヌ英和辞書第五章第二節)

朝里の郷土史研究家であつた小林廣は、アサリの地名として、「アイヌ語で広い土地という義で、それは現在の(朝里) 山の上が平坦で広いところから、彼ら先住民が地名と呼んだものと考えられる」と述べている。特に文献の出典は示していない。(続く)

参考文献

- 1 山田 秀三 北海道の地名 三版 北海道新聞社 1988
- 2 小林 廣 いなりの坂 小樽・朝里まちづくりの会 平成14年
- 3 北海道蝦夷語地名解 附・アイヌ地名考(ジョン バチエラー)
永田方正著 国書刊行会 昭和53年復刻三版
- 4 北海道蝦夷語地解 北海道庁属永田方正著 明治24年刊 1891年

<https://ab.ndi.go.jp/d/book/992037?page=1>